

1. 1系統から20系統

系統番号	起点	途中経由地	終点	担当営業所	共同運行	運行頻度	備考
1	中山駅前	西村橋、石神	緑車庫前	緑		IC	出入便 時間帯によって多少頻度に変動あり
1系統 解説	トップナンバーの路線です。その番号が指し示す通り市営バス開業時に設定された三ツ沢線が転じた路線でした。横浜駅西口と中山駅前を結ぶ路線でした。2007年10月から神奈中バスに移譲され、市営バスとしては中山駅前～緑車庫前間の出入り便のみ残ることになりました(なお、方向幕などの表示は無系統です)。横浜駅西口から松本、三ツ沢、和田町、梅の木、笹山を通り、鴨居橋で左折し、緑車庫前を経て中山駅前に行きます。本数は1時間に1本程度でした。また、中山駅前から竹山団地折返場行という子系統もありました。この系統56系統の補充路線みたいなもので、こちらは日中のみの運行でした。						
2	港南車庫前	清水橋、上大岡駅前、弘明寺、羽衣町、日本大通り駅前、中華街入口	みなと赤十字病院	港南		DC	
	港南車庫前	清水橋、港南区総合庁舎前	上大岡駅前	港南		IC	
2系統 解説	かつては横浜駅(東口)から大船駅まで通っていた路線です。それが県庁前(現在は日本大通り駅前)～港南車庫前になり、さらに県庁前から港湾病院(現在のみなと赤十字病院)まで延長されました。県庁前終点時代は本数は少ないものの一日中走っていたのですが、現在は上大岡駅～みなと赤十字病院間は日中のみの運行となっています。みなと赤十字病院を出て、国道133号を本町一丁目まで走り、鎌倉街道に入ります。あとは港南車庫まで一直線です。上大岡駅からの区間便は他系統の出入りを含めてかなりの本数がありましたが、2005年7月のダイヤ改正で大幅に減便されてしまいました。						
3							
3系統 解説	横浜駅西口から東神奈川駅西口、六角橋、篠原池、(途中新横浜駅発有り)又口橋、小机駅、川向町、佐江戸、川和町を経て東急田園都市線市が尾駅まで行く歴史のある系統でしたが、東急バスとの乗り入れ路線ということもあり東急バスへ移譲されました。移譲の前に2005年11月末まで市が尾駅から川和町、瑞雲寺を経由して港北ニュータウン車庫へ行く路線が廃止され、ついで2006年11月に移譲を前提としたダイヤ改正が実施され、東急バスは又口橋～横浜駅西口間を廃止し、横浜駅西口行きの市営バス3系統も1時間に1本程度の運転となりました。2007年3月16日に路線移譲が行われ、市が尾駅～新横浜駅間の路線となり市営バスは廃止されました。						
4							
4系統 解説	磯子駅から追浜天神橋を結ぶ路線で、京浜急行バスと乗り入れていました。なお、かつては横浜駅から六浦まで走っていました。相互乗り入れ路線と言うことでほぼ両社のバスが交互に運行されていました(京浜急行バスは(京浜急行バスの)追浜車庫前まで運行)。2007年3月末で京浜急行バスに移譲(一本化)され、市営バスは廃止となりました。路線は磯子駅を出て磯子車庫前で右折し国道16号線に入り、以後は富岡、長浜、金沢文庫、金沢八景を経て追浜駅で左折し、次の追浜天神橋が終点でした。杉田から先は対キロ運賃区間になっており、磯子駅から追浜天神橋間は250円(廃止時点)でし						

1. 1系統から20系統

系統番号	起点	途中経由地	終点	担当営業所	共同運行	運行頻度	備考
5	横浜駅西口	楠町、浅間町車庫前、洪福寺	保土ヶ谷車庫前	保土ヶ谷	神奈中	IC	出入り便
	横浜駅西口	楠町、浅間町車庫前、洪福寺、峰小学校前	保土ヶ谷車庫前	保土ヶ谷	神奈中	IC	出入り便 横浜駅西口発は夜間のみ
5系統解説	元々は横浜駅西口～亀甲山(一時は下鶴間)まで行く長距離路線で、神奈中バスと共通定期券の取扱を行ってきました。横浜駅西口を出ると国道16号線をひたすら走る路線でした。路線はその後横浜駅西口から若葉台中央という路線も出来ました。また、よこはま動物園開業時には鶴ヶ峰駅からよこはま動物園へ行くバスに5系統が与えられました。 市営バスの再編計画の一環で神奈中バスに移譲となりましたが、横浜駅西口～保土ヶ谷車庫前間は保土ヶ谷営業所車両の出入り便として交通局で運行しています。						
6	新横浜駅前	太尾新道、下町会館前、大倉山駅前、トレッサ横浜、三ツ池公園北門、下末吉国道際	鶴見駅西口(鶴見駅入口)	港北		C	平日は夕方以降運行
	新横浜駅前	太尾新道、下町会館前、大倉山駅前、トレッサ横浜、三ツ池公園北門	梶山	港北		C	
6系統解説	過去に何回か使用された系統です(詳しくは「市営バスあれこれ」ページをご覧ください)。2010年4月1日から新横浜駅前～大倉山駅前～トレッサ横浜～鶴見駅西口・梶山間を運行する路線として再設定されました。新横浜駅を出るとかつては41系統の幻のルートとされていた太尾新道を走り、太尾西住宅、下町会館前、大倉山駅前と走ります。その先環状2号線に入り、鶴見駅西口及び梶山(平日の朝のみ)まで走ります。41系統と104系統をくっつけたような路線です。 2013年3月のダイヤ改正で平日は新横浜駅～梶山間の運行がメインとなり、鶴見駅西口へは夕方以降のみ乗り入れる形になりました。また、土休日も梶						
7	横浜駅前	東神奈川駅西口、岸谷、三ツ池道	川崎駅西口	鶴見		C	横浜駅前～三ツ池道(鶴見駅方向は宮の下)間は29系統と合わせて
	横浜駅前	東神奈川駅西口、岸谷、三ツ池道、東部病院	川崎駅西口	鶴見		C	頻度B 東部病院は日中のみ乗り入れ
7系統解説	横浜駅というとバスに関しては西口の方がにぎやかに感じますが、元々は西口発の多くのバスが東口から出ていました。京浜急行神奈川駅近くの青木橋の工事によって西口発になったものです。7系統もそういう経緯から一度西口発になったのですが、横浜そごうオープンにあわせて東口発に戻りました。青木橋を渡り、あとは川崎市南幸町までひたすら第2京浜を走ります。川崎市内、川崎駅に乗り入れる横浜市営バスです。						
8	本牧車庫前	和田山口、中華街入口、日本大通り駅県庁前	横浜駅前	本牧磯子		C	深夜バス運行 横浜駅←本牧原、→本牧車庫前間は頻度B(58系統と合わせると頻度A)
	本牧	本牧三溪園前、和田山口、中華街入口、日本大通り駅県庁前	横浜駅前	本牧		C →	本牧発のみ運行
8系統解説	横浜市営バスが出来てまもない頃から走る路線です。横浜駅から乗ると桜木町駅、日本大通り駅県庁前、中華街、みなと赤十字病院入口、小港橋を通り、小港で本牧通りに入ります。本牧で左折し、本牧三溪園前を通って本牧車庫前までの路線です。本牧三溪園のあたりは上りと下りで経路が違い、本牧車庫発のバスは本牧三溪園前を通りません。そのために、本牧車庫から本牧まで回送し、本牧から三溪園を通して横浜駅に向かう便があります。						

1. 1系統から20系統

系統番号	起点	途中経由地	終点	担当営業所	共同運行	運行頻度	備考
9	磯子車庫前	磯子駅前、滝頭、岡村町、弘明寺、保土ヶ谷駅東口	藤棚	滝頭		C	滝頭～保土ヶ谷駅東口間は頻度B 水道道～藤棚間は平日のみ運行
	滝頭	岡村町、弘明寺、保土ヶ谷駅東口	横浜駅前	滝頭		C	
9系統解説	全線を通して走る便がない路線です。横浜駅から出る便は国道1号を保土ヶ谷橋まで走ります。保土ヶ谷橋で左折し、井土ヶ谷を経て通町1丁目鎌倉街道に入ります。弘明寺から旧道に入り、こんなところを走るとかという道路を走り、岡村町を経て滝頭に行きます。藤棚発はその先、八幡橋、磯子駅、磯子車庫前まで行きます。滝頭～弘明寺間はひたすら狭い道路を走るのですが、この路線は横浜市で最初にワンマンカーの運行を行った路線の一つだそうです。						
10	磯子駅前	杉田駅前、栗木町	峰の郷	滝頭		C	小型車運行
10系統解説	1995年まで車掌さん(添乗員)の乗務するバスでした。しかし、日野のリエッセを導入して小型車化すると同時にワンマンカー運行となりました。以前は滝頭営業所の所管で市電保存館前～峰(後に峰の郷)までの運行でしたが、路線廃止対象、補助金支給対象路線となり2007年4月からは市電保存館前～磯子駅前間を廃止し、磯子駅前から峰の郷間の運行となりました。磯子駅前を出ると、一度国道16号に入って中原から狭い道に入ります。その後狭い道を杉田駅、栗木町まで行きます。栗木町から一度広い道路に出ますが、萩台から再び狭い山道に入ります。 以前の終点は峰で、ここは円海山という山の中にありました。峰に着いたバスは狭い折り返し場にバックして入り、向きを変えて折り返していましたが、2001年6月末にその先の峰の郷まで路線が延長され峰での折り返しは見られなくなりました。						
11							
11系統解説	桜木町駅から保土ヶ谷駅に行くバスで、日本大通り駅前、中華街、港の見える丘公園へと向かいます。外人墓地の脇を通るなど横浜らしいルートを行く路線でしたが、赤字のため廃止対象、補助金支給対象路線となり引き継ぐ事業者を募集したところ神奈川中央交通が引受先として名乗りを上げ、2007年4月から神奈中バスによる運行となりました。 この路線は地蔵坂上～中村橋間がハイライトとなる区間でした。ところによってはバス同士のすれ違いが困難なところもあり、バス専用の待機信号機もあるなどこの系統も「こんなところを通るのか?」というところを通っていました。						
12	緑車庫前	(白山高校前)、鴨居駅前、菅田町	西菅田団地	緑		B	白山高校経由は一部便のみ
	中山駅前	緑車庫前、(白山高校前)	鴨居駅前	緑		C	白山高校経由は一部便のみ
12系統解説	最近まで横浜駅西口～三ツ沢グランド、西菅田団地、鴨居駅～緑車庫前のことを指していましたが、系統整理によって横浜駅西口から菅田町間が81系統となり、中山駅・鴨居駅から白山高校、西菅田団地あたりの路線となりました。						

1. 1系統から20系統

系統番号	起点	途中経由地	終点	担当営業所	共同運行	運行頻度	備考
13	鶴見駅前	三ッ池道、末吉橋、一の瀬	綱島駅前	鶴見港北		B	
	鶴見駅前	三ッ池道、末吉橋	一の瀬	鶴見港北		A	運行頻度は綱島駅行を含む深夜バス運行
	鶴見駅前	三ッ池道、末吉橋、一の瀬	新横浜駅前	鶴見港北		C	運行頻度は樽町中央～新横浜駅間のもの
13系統解説	<p>鶴見区と港北区を結ぶ幹線です。鶴見駅を出て、三角(みかど)、三ッ池道、末吉橋、一の瀬へと走ります。全体の1/2～2/3程度がこの一の瀬止まりです。その先、綱島駅へは約20分間隔で運行されます。鶴見川を大綱橋で渡り、かつては温泉で栄えた綱島駅へ乗り入れます。綱島駅周辺は道路が狭く、駅構内に入るのもなかなか大変です。</p> <p>鶴見駅～新横浜駅線は当初は港北営業所担当分の出入り便としての位置づけで運転されていましたが、現在は若干運行本数も増え、また、鶴見営業所も担当することから単なる出入り便ではなくなってきています。</p>						
14	梶山	末吉、峰坂→、行定庵前←、三ッ池道	鶴見駅西口(鶴見駅入口)	港北		RC	三ッ池公園北門～鶴見駅西口間は104系統とあわせてほぼ終日頻度A
14系統解説	<p>なかなか複雑な運行形態をするバスです。以前は梶山～新子安駅西口間のバス路線でしたが、一部が104系統と統合の上、新横浜駅～新子安駅西口という路線になりました。</p> <p>2007年3月末で鶴見駅西口～新子安駅西口間が再編により廃止となり、以下のような体制となりました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・梶山～鶴見駅西口：14系統(平日朝夕、土休日朝及び深夜の鶴見駅西口(入口)発梶山行のみ運行) ・新横浜駅前～鶴見駅西口：104系統 ・新横浜駅前～梶山：104系統 						
15	鶴見駅前	本町通2丁目、汐入町2丁目、入船橋、向井町2丁目	鶴見駅前	鶴見		C	一方循環
	鶴見駅前	向井町2丁目、大東町、仲通3丁目、本町通2丁目	鶴見駅前	鶴見		C	一方循環
15系統解説	<p>鶴見区を代表するような路線です。鶴見地区のバスは、一部の例外を除いてどの系統も番号が比較的若いものになっています。これは、鶴見地区に市電があまり走らなかった(あまりと書いたわけは鶴見線という路線が戦時中に生麦～鶴見駅まで作られたためです。戦災で運行不能となり、その後戦後すぐに進駐軍によって線路が埋められてしまいました)ことなどから古い路線が多く、結果的に番号も若いものが多いと考えられます。</p> <p>この循環線(内回り)は鶴見駅を出た後いったん国道15号線(第1京浜)に沿って走ります。が、すぐに左折。本町通りの商店街を通り、本町通3丁目の先で右折し、今度は汐入町2丁目まで左折します。そのまま産業道路を入船橋まで走って左折。その後は向井町を通り鶴見駅に戻ります。</p> <p>外回りは2014年3月に改変があり、外回り線は仲通三丁目を経由するルートに変更となりました。</p>						

1. 1系統から20系統

系統番号	起点	途中経由地	終点	担当営業所	共同運行	運行頻度	備考
16	鶴見駅前	平安高校前、向井町2丁目	鶴見駅前	鶴見		B	内回りは平日朝1本のみ(頻度は外回りのもの)
	鶴見駅前	芦穂橋、平安高校前	鶴見駅前	鶴見		C	一方循環 平日の朝夕のみ運行
16系統解説	昔は鶴見駅～生麦がメインルートだったのですが、現在この区間を走る便はなくなりました。鶴見駅から生麦に向かうのに、わざわざ生麦とは反対側の川崎方向に向かうユニークな路線でした。残った循環線は箱根駅伝で有名な鶴見の中継ポイントのあるところを通り、平安町で国道15号線(第1京浜)と別れます。向井町を抜けて鶴見駅に戻ります。また、平日の朝夕には臨港バスが主に走る芦穂橋経由の循環線もあります。以前は生麦行き他に汐入町方面の循環線ありましたがこちらは生麦行き同様廃止となっています。						
17	鶴見駅前	明神前、(急行)、大黒ふ頭、L8バス(大黒ふ頭)、大黒税関前循環	鶴見駅前	鶴見		MB EC →	一方循環 平日の朝夕のみ運行 明神前～大黒ふ頭間急行運転
	鶴見駅前	明神前、(急行)、大黒ふ頭、流通センター、大黒海釣り公園、大黒税関前循環	鶴見駅前	鶴見		RC →	一方循環 平日の朝夕のみ運行 明神前～大黒ふ頭間急行運転
	鶴見駅前	明神前、(急行)、大黒ふ頭、L8バス(大黒ふ頭)、流通センター、大黒海釣り公園、大黒税関前循環	鶴見駅前	鶴見		RC →	一方循環 土曜日の朝夕のみ運行 明神前～大黒ふ頭間急行運転
	鶴見駅前	明神前、大黒ふ頭、L8バス(大黒ふ頭)、流通センター、大黒海釣り公園、大黒税関前循環	鶴見駅前	鶴見		DC →	平日、土曜の日中のみ運行
	鶴見駅前	明神前、大黒ふ頭、流通センター、大黒海釣り公園、大黒税関前循環	鶴見駅前	鶴見		C	休日のみ運行
17系統解説	鶴見駅と大黒ふ頭周辺を結ぶ幹線です。以前は子系統も多数有り、運行本数もそれなりにあったのですが赤字路線、補助金支給対象路線となり2007年4月に再編が行われ、「横浜さとうのふるさと」方面は181系統に変更となり、また生麦発着も廃止され、運行本数も激減してしまいました。運行形態としてはベイブリッジが出来る以前は鶴見駅を出て、明神前から大黒地区に入り、各目的地に着くと今度はそこで折り返して再び明神前まで行き、生麦に行くというのが運行形態(109系統の出入りとして生麦～スカイウォーク前線がありました)でしたが、最近はやっと様子が異なっています。横浜さとうのふるさととはかつて「大黒町岸壁」と呼ばれていましたが、バス停名が変更になりました。大黒ふ頭に私が初めて来たのはまだベイブリッジが出来るだいぶ前でしたが、沿線は大分変わってしまいました。						

1. 1系統から20系統

系統番号	起点	途中経由地	終点	担当営業所	共同運行	運行頻度	備考
18	生麦	鶴見駅前、元宮、尻手駅前	矢向駅前	鶴見		IC	中型車運行
	鶴見駅前	元宮、尻手駅前	矢向駅前	鶴見		C	中型車運行
18系統解説	鶴見営業所の中(小)型車担当路線です。生麦から鶴見駅までは出入り便の印象が強いですが、生麦から出るバスで唯一鶴見駅までストレートに国道15号線(第1京浜)を走る路線となっています。鶴見駅を出たバスは、ちょっと国道15号線(第1京浜)を走りますが、すぐに裏通りに入ります。中(小)型車が走るにふさわしい道の狭さです。鶴見川を渡り、元宮、そしてJRの元宮踏切を渡ります。一度閉じてしまうとなかなか開かない踏切です。もう少々狭い道を作り、国道尻手で一度第2京浜に入ります。尻手駅を通った後で右折し、道幅の狭い道路を走り南武線の矢向駅に着きます。平日の日中に限り、矢向駅に行く前に江ヶ崎に立ち寄る便がありました。2007年3月の路線改変で江ヶ崎経由は廃止となりました。						
19	新子安駅前	宝町、明神前、滝坂	新子安駅前	鶴見		MB →	朝のみの運行 一方循環
	新子安駅前	生麦、明神前、宝町	新子安駅前	鶴見		EB →	平日夕、夜間のみの運行 一方循環
	生麦	明神前、宝町	新子安駅前	鶴見		DC	平日は日中のみ運行 土休日は日中以降運行
19系統解説	元々は鶴見駅と新子安駅を結ぶ路線でした。鶴見駅を出たバスは明神前まで国道15号線(第1京浜)を走り、左折の後しばらくは大黒方面に向かって走ります。新興駅(貨物駅(現在は貨物駅跡))前で右折し、宝町を経由して新子安駅に着きます。全線を通して走る便の他に生麦発着便もありました。また、一時以前は新子安駅から出る大黒ふ頭循環線もありましたが、そちらは廃止になりました。2013年3月に路線改変が行われ、朝及び平日の夕、夜間は新子安駅からの循環便、平日の日中及び土休日の朝以降は新子安駅～生麦間の運行に変更となりました。						
20	山手駅前	港の見える丘公園、元町入口、中華街入口、日本大通り駅前	桜木町駅前	本牧		C	小型、中型車運行
	山手駅前	港の見える丘公園、元町入口、マリンタワー前	山下ふ頭	本牧		RC	平日の朝夕(3.5往復)のみ運行 小型車、中型車運行
20系統解説	第2次世界大戦以前から走る歴史のある路線です。元々は横浜駅から山手駅を循環し、横浜駅へ戻る路線でしたが、みなとみらい線とルートにかぶるなどから路線改変の対象となり、2005年2月末から山手駅～山下ふ頭(山下ふ頭入口)というルートに変更され、同時に営業所の移管(浅間町→本牧)と小型車化が実施されました。山手駅～上野町間、北方小学校前～元町入口間は道幅の狭いところや急カーブ、急坂を走ります。山手駅～上野町間の大和町1丁目、大和町2丁目は上りと下りで経路が異なるため、バス停の位置が少々離れています。以前はこのためからか山手駅を越えての乗車が出来たのですが、山下ふ頭発着に改変された後は山手駅が正式な起終点となり、山手駅を越えての乗車は出来なくなりました。2013年3月に路線改変が行われ、中華街入口～桜木町駅前間が復活しました。一方、山下ふ頭発着便は平日の朝夕のみの運行となりました。						